発　行　所
長野県保険医協会
〒380-0928長野市若里1丁目-5-26
電話　026（226）0086
FAX　026（226）8698
E-mail　nagano-hok@doc-net.or.jp
年間購読料 3,600円（会員の購読料は会費に含まれています）

2015年（平成27年）6月25日
No.４１２（毎月1回25日発行）
（1990年6月22日第三種郵便物認可）

主な記事

支払基金審査委員/協会2015年度活動方針の修正箇所…2面、協同組合ニュース…3～4面
県民大集会/安保法案廃案を求める声明他…5面、理事会だよりほか…6面

「”歯は命”6・4国会内集会」400人を超す参加者が集結

各地で「虫歯予防デー」行事が開催された６月４日、「“歯は命”健康長寿社会に向けて保険で良い歯科医療を６．４国会内集会」が衆議院第一議員会館で開かれた。長野協会から宮沢副会長、林常任理事と事務局２名が参加した。全国から400人を超す参加者があり、議員も駆けつけ会場は溢れるほどであった。集会では、長年の低歯科診療報酬のもと歯科医院、歯科技工所の厳しい経営実態、患者も遠のく３割負担の影響等が訴えられ、最後に保団連の宇佐美宏歯科代表(集会副実行委員長)が自治体意見書採択を過半数に広げること、過去最大の50万筆請願署名の取り組みを提案し今後の運動を誓いあった。集会後、林常任理事が県関係議員を回り歯科単独の診療報酬関係の要請書と関連資料を届け、衆議院の務台・藤野両議員には議員本人に直接手渡し要請することができた。

挨拶する保団連の宇佐美宏歯科代表（集会副実行委員長）

宮沢副会長（左）と林常任理事（右）

～集会に参加して～

今回の集会で疲弊している歯科医療の改善に向けて、国民の願いである患者窓口負担の軽減と保険でより良い歯科治療の拡大、予算の増額を立場を超え、同じ方向に向かって行動する大きな一歩とすることが確認された。

（副会長 宮沢 裕夫）

保団連北信越ブロック会議

安保法案の廃案を求める決議など2決議を採択

保団連北信越ブロック会議が６月14日に金沢で開催され、長野県保険医協会からは役員７名と事務局が参加した。

学習講演会は金沢大学名誉教授の伍賀一道氏招き、『「非正規大国」日本の格差と貧困―雇用と労働を中心に考える』と題し、現代雇用の劣化について講演があった。冒頭、日本に根強く存在する「自己責任論」についての言及から始まり、我々自身が頭のどこかで「自己責任論」にとらわれていないかと指摘。そして、日本と海外の失業率と貧困率を比較した結果「低い失業率と高い貧困率」が日本の特徴だと述べた。最後に伍賀氏は、「派遣法の改悪の流れによって、現在は禁止されている医療関連業務にまで派遣労働が徐々に入ってくる危険性もあり、医師・歯科医師にとっても無関係の話ではない。非正規を社会全体の問題としてとらえ、将来的な展望をもつことが必要である」と強く呼びかけた。

医科分科会では、西田忠之先生より在宅医療連携を進めるために発足された「メモリーケア・ネットワーク能美」について紹介や、日々の診療から思うあるべき地域包括ケアシステムについて問題提起があった。

全体学習会の様子

歯科分科会では、平田米里先生より「地域包括ケアシステムと口腔機能改善における歯科医師の役割」について問題提起があり、歯科においては多数の残存歯を有する患者の増加が見込まれる中、歯科医師に求められるケアは口から食べること、肺炎や発熱の予防を含む口腔の清潔に関するものに大別できると説明。いずれも歯科が従来から行ってきた取り組みと変わりないことを指摘し、今後は歯科医院への搬送システムを整備することや、訪問診療の相談応需体制を整備すべきと提案された。

また、保団連北信越ブロック会議では医療保険制度改革関連法案成立への抗議と、安全保障関連法案の廃案を求める決議が採択された。

北信越ブロック会議に参加した長野協会の役員

電話相談23件に対応

保険でより良い歯科医療を長野連絡会

保険でより良い歯科医療を長野連絡会（以下、保険でより良い長野連絡会）は５月24日、歯科医師による「歯のなんでも電話相談」を開催し、県下23人（北信10,東信1,中信9,南信3）からの相談があった。相談を担当したのは連絡会の構成団体の県保険医協会の歯科医師５名(役員4名,部員1名)。

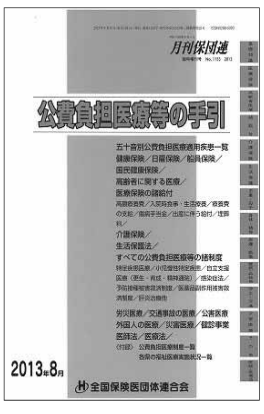
相談内容は、欠損補綴が8件、歯周疾患5件、歯科矯正が3件、インプラント2件、他5件などで、概ね回答には満足の様子だった。

相談内容と対応については例年通り概要は本紙で紹介の予定。

相談者からの質問に対応する歯科医師

今までも相談者から「歯科医師を紹介して欲しい」という要望があったが、体制がとれていないことから紹介はしてこなかった経緯がある。しかし、今回の相談でも歯科医師を紹介して欲しいとの要望が多く、保険でより良い長野連絡会会議でも「今後の対応策を考えなければならない」という意見が出ており、今後歯科部会等でも検討していく予定だ。

書籍のご案内



７月下旬発行予定

公費負担医療等の手引
（2015年7月版）

定価：4,000円　会員価格：2,800円

医科開業医会員はお申し出があれば１冊無料。お申込みは本紙同封の注文票をご利用ください。

（写真は2013年版の表紙）

鶏声

◆第一次政権「美しい国づくり内閣」の時に批判的内容を小欄に書いた。数年後、自民党総裁に返り咲く数か月前、都内で行われた集会で挨拶の出番を待つ安倍氏は、筆者の一メートルちょっと先の来賓席に座っていた。その縁もあってフェイスブックで彼のタイムラインを時折眺めているが、渦中の戦争法案に直接触れたのは、五月一四日「平和安全法制に関する法案を閣議決定」、五月二〇日とその翌日の党首討論に関する記事だけである。以後、六月一一日まで、旗色が悪いためかこの関連では投稿がない。◆法案の行方について最大の影響を及ぼしたのは、何より六月四日の衆院憲法審査会の参考人全員による「集団的自衛権行使は憲法違反」というダメ出しだろう。また、戦争における常識として、武器弾薬の補給部隊は反撃能力が低いため、そこを攻撃するのは容易いことであり攻撃側の被害も少ない。戦場になっていない場所で仕事をさせるから自衛隊員のリスクが低いというウソは、小学生でも見抜ける。◆反論を試みる与党側の苦しい言い訳を含めて、それぞれの主張はだいたい出てしまったと思う。与党は数の力で七月上旬の衆院通過を狙っており、今後は、法案を廃案に持ち込む一点で国会内での共闘が必要であり、世論の更なる盛り上がりが欠かせない。これにはふだん静かな人々にも発言してもらい立ち上がってもらって、大きなうねりを作らねばならない。「米国の後ろ盾で東アジアに君臨する美しい国づくり」という野望を阻止する熱い夏である。（ＭＭ）